



「二十四節気」で季節を感じよう

二十四節気(にじゅうしせつき)は、1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもので、今でも立春、春分、夏至など、季節を表す言葉として用いられています。

これからの節気は・・・。

「処暑(しょしょ)」・・・暑さがおさまる頃。(新暦8月23日)

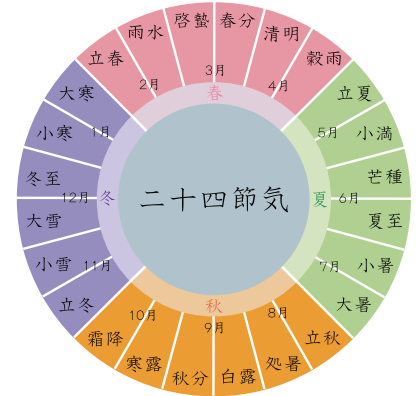
「白露(はくろ)」・・・しらつゆが草に宿る。(新暦9月7日)

「秋分(しゅうぶん)」・・・秋の彼岸の中日。(新暦9月23日)

「寒露(かんろ)」・・・秋が深まり野草に冷たい露がむすぶ。(新暦10月8日)

「霜降(そうこう)」・・・霜が降りるころ。(新暦10月23日)

最近では温暖化の影響もあり、必ずしもその時期に当てはまらないかもしれませんが、言葉から季節を感じて、風流に過ごしたいですね。



「Eco列車でいこう！」～第144回～ 日本百名山「火打山」を歩く。

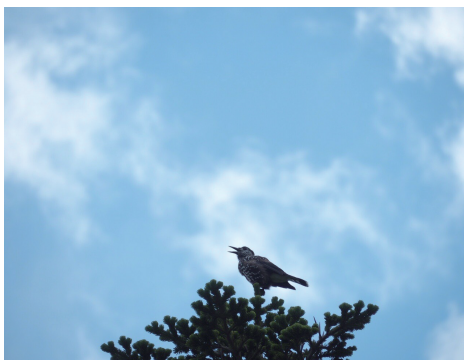
(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！)

7月30日(金)。仕事終わりに新潟市を出発し、「道の駅あらい」にあるホテルに投宿した。夕食は食堂ミサの「みそラーメン」。翌朝4:30に出発。国道18号から、つづらおりの道を約15キロ。放牧牛を見ながら「笹ヶ峰」に到着。「火打山登山口」で協力金500円を払うと、かわいいストラップをもらった。まずは樹林帯の気持ちいい木道を歩く。標高差は約200mでウォーミングアップにちょうどいい。水量豊かな川が流れる「黒沢橋」から本格的な登りとなり、約500mを登って行く。滝を右手に見ながら、しばらく進むと「十二曲り」。難所みたいな名前だが、なんてことのない「つづら折りの道」で、なんなくクリア。そのあとの石のガレ場の方が少し険しい。そして富士見平の分岐。この先もガレ場と泥濘のガマンの道。ほぼ平坦だが、足場が悪く約30分が長く感じる。

登山口から約2時間30分で「高谷池ロッジ」に到着。小屋の回りにベンチがあり、トイレがあり、景色もいい。オアシスのようだ。そしてこの先が登山道一の絶景。道はほぼ平坦。高谷池を巻いて、少しだけ登ると、ロックガーデンのお花畑。気分良く歩みを進めると「天狗の庭」。草原を埋めつくすワタスゲの大群生。最高のロケーションだ。来て良かったと思う。

ラストは350mの標高差。岩場を登り、途中「ライチョウ平」でライチョウを探しても発見できず。笹原を進み、山頂直下は階段。気力体力を振り絞って登っていけば、最後は左にカーブし、標高2461mの山頂に到着した。お湯を沸かし、ラーメンを食べて、来た道に戻った。

燕温泉にある、燕ハイランドロッジに宿泊。心のこもったサービスと、29℃の冷泉露天風呂で体力を回復した。翌日は赤倉観光ホテルのカフェでケーキタイム。のんびりと妙高を楽しんだ。



ハイマツ帯にいたホシガラス。



ワタスゲの大群生に癒される。



赤倉観光ホテルでのんびりティータイム。